千葉県文化財センター調査報告第275集

四街道市堂ノ後遺跡

主要地方道浜野四街道長沼線住宅宅地
関連事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成7年3月

千葉県土木部
財団法人　千葉県文化財センター

序　　文

四街道市の南端に位置する吉岡地区は、四街道市指定文化財の福星寺館跡及び木出城跡などの中世城跡が存在することからも知られるように、古くから形成された集落を中心とする地区ですが、住宅地の開発や教育機関・企業の研究機関などを誘致した新しい街づくりも始まっています。

このような中で、吉岡地区を通る主要地方道浜野四街道長沼線の改良事業が、千葉県土木部により計画されました。千葉県教育委員会は、所在が周知されている堂ノ後遺跡の一部が路線予定地内にかかることから、関係諸機関と協議を行った結果、記録保存の措置を講ずることにしました。

平成6年9月から10月にかけて、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施したところ、縄文時代の資料を検出し、ここに報告する運びとなりました。本書が学術資料としてはもとより、地域の歴史を知る資料として、また埋蔵文化財への関心を深めるための資料として、広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に当たり御指導，御協力いただいた千葉県教育庁生涯学習部文化課を初めとする関係諸機関に厚くお礼申し上げるとともに、記録的な猛暑の中での調査に従事された調査補助員の皆様に心から謝意を表します。

平成7年3月

財団法人　千葉県文化財センター

理事長　　奥　山　　浩

図版１　調査区遠景（北東から）

凡　　例

1．本書は、千葉県四街道市吉岡字荒句415ほかに所在する堂ノ後（どうのうしろ）遺跡（228-017）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査から報告書作成に至る業務は、主要地方道浜野四街道長沼線住宅宅地関連事業に伴う埋蔵文化財調査として、千葉県土木部の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉県文化財センターが実施した。

3．発掘調査は平成６年９月１日から10月14日まで、整理及び報告書の作成作業は発掘調査と一部並行しながら10月31日まで実施し、調査研究部長 西山太郎，千葉調査事務所長 田坂 浩の指導のもとに主任技師 山田貴久が担当した。

4．発掘調査から本書の刊行に至るまで、千葉県土木部道路建設課，千葉県印旛土木事務所，千葉県教育庁生涯学習部文化課，四街道市教育委員会などの関係各位から多くの御指導，御協力を賜った。記して謝意を表します。

目　　次

序文

凡例

本文目次

Ⅰ　調査に至る経緯……2

Ⅱ　遺跡の位置と環境……3

Ⅲ　調査の成果……4

　１．遺構……4

　２．遺物……5

Ⅳ　まとめ……7

挿図・図版目次

図１　周辺の地形と主な遺跡 ……2

図２　調査区全体図・グリッド設定図・基本層序……4

図３　１号土坑 ……5

図４　遺物出土分布図 ……5

図５　出土遺物 ……6

図版１　調査区遠景 ……1

図版２　調査区近景 ……1

図版３　遺物出土分布状況 ……5

図版４　遺物出土状況 ……5

図版５　１号土坑 ……8

図版６　出土遺物 ……8

図版２　調査区近景（北西から）

Ⅰ　調査に至る経緯

県都千葉市の東に隣接する四街道市は、首都圏の近郊都市として大規模団地の造成整備等が急速に進められ、人口の社会増加が著しい地域である。四街道市の南端に位置する吉岡地区でも、千葉市の下田地区を含めた広範囲で住宅地の造成が始まったため、千葉県土木部（印旛土木事務所）により、この地区を通る主要地方道浜野四街道長沼線の改良事業が計画された。

用地取得に当たった千葉県土木部から千葉県教育委員会へ、埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会があり、現地調査の結果、計画路線が周知の堂ノ後遺跡の一部にかかることが確認された。

その後、遺跡の取扱いについて関係部局で協議の結果、発掘調査による記録保存の措置を講じることとなり、平成６年９月から財団法人千葉県文化財センターが調査を実施した。

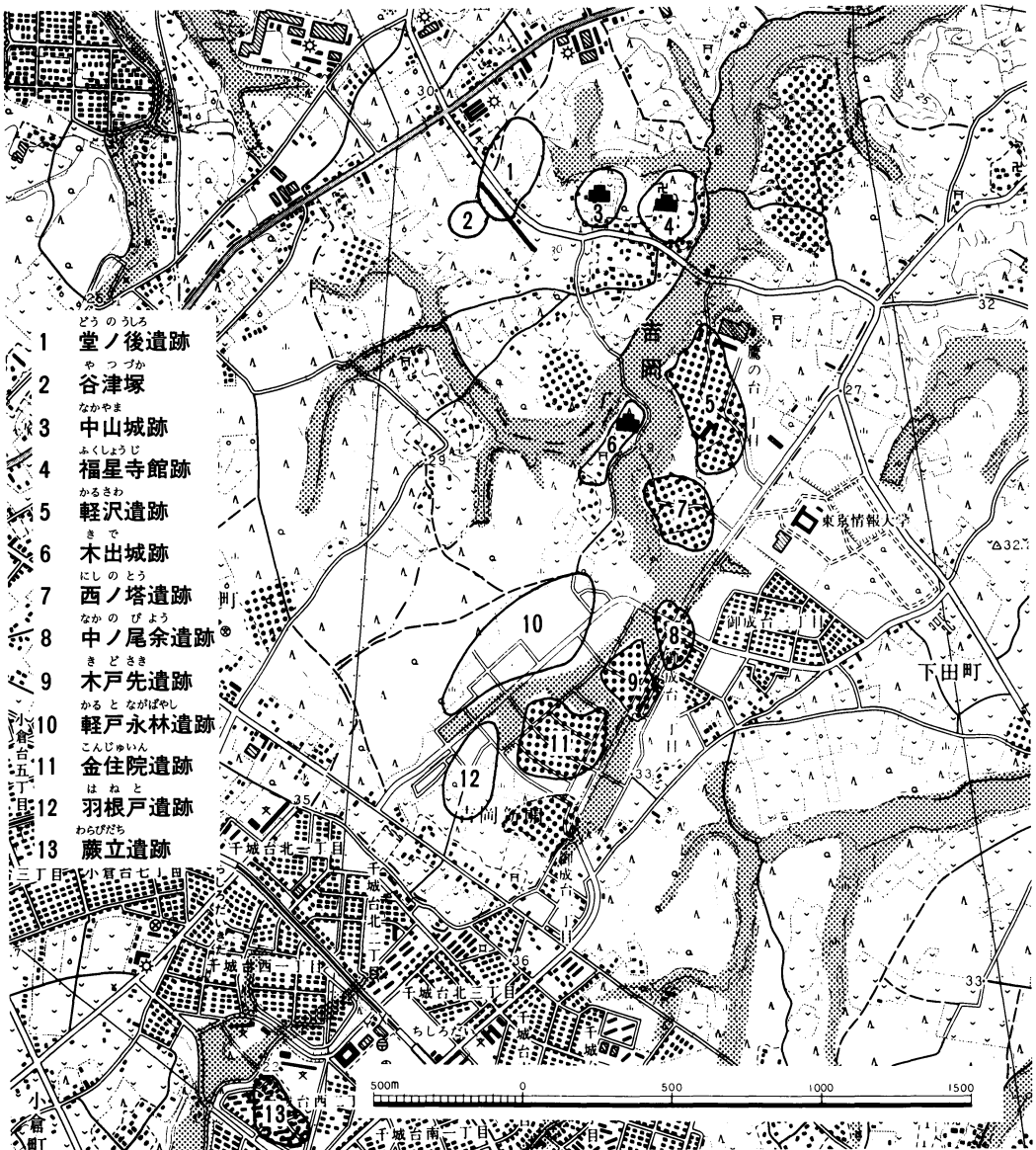


図１　周辺の地形と主な遺跡（国土地理院発行 1/25,000 千葉東部）

II　遺跡の位置と環境（図１）

堂ノ後遺跡は、印旛沼の南側に流入する鹿島川に、佐倉市内田付近で合流する並木川によって開析された吉岡支谷の左岸台地上に位置し、四街道市吉岡字木出付近と下夕山付近で並木川に合流する２支流の間に広がる台地の付け根部分に所在する。

本遺跡の周辺には、並木川によって樹枝状に浸食された台地上に数多くの遺跡が確認されており[1]、吉岡地区の開発等に伴って遺跡の調査例も増加してきた。以下、並木川流域を中心に近隣の主な遺跡を時代別に概観しておく。

縄文時代では、草創期の30点の石槍が検出された木戸先遺跡[2]、早期茅山上層期の炉穴群が検出された軽沢遺跡[3]がある。前期になると、軽沢遺跡，中ノ尾余遺跡，木戸先遺跡，金住院遺跡で集落が展開する。特に木戸先遺跡では、黒浜期から諸磯期の大型のものを含む12軒の住居跡と、約200基の土壙墓群，300余の小ピット群からなる集落が調査され、当該期の集落構成や墓制等の解明に貴重な資料を提供している。また、中期は中ノ尾余遺跡で加曽利ＥII期の住居跡が２軒検出されている。

弥生時代では、軽沢遺跡で中期宮ノ台期の住居跡が３軒、後期の印旛・手賀沼系の土器を伴う住居跡が４軒検出されている。

古墳時代では鬼高期の軽沢遺跡、歴史時代では軽沢遺跡，木戸先遺跡で集落の調査が、金住院遺跡，羽根戸遺跡で方形周溝状遺構の調査が行われた。

中近世では、牧状遺構を検出した軽沢遺跡，中ノ尾余遺跡、塚は西ノ塔遺跡で４基，軽戸永林遺跡で10基が調査され、谷津塚[4]では26基が群在することが確認されている。また、これらの遺跡との関連性を窺わせるものとして、福星寺館跡，中山城跡，木出城跡等の城館跡の存在が知られている。

今回の調査で検出した縄文時代中期阿玉台期の遺跡では、都川水系大道山支谷（南南西の方向約３km）に千葉市蕨立遺跡の調査例がある[5]。なお、図中には阿玉台式土器の出土遺跡及び散布地を⁘で表してある。

註：1『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）－東葛飾・印旛地区－』財団法人 千葉県文化財センター 1985
『千葉県埋蔵文化財分布地図（２）－千葉市・香取・海上・匝瑳・山武地区－』財団法人 千葉県文化財センター 1986

2『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－昭和59年度－』千葉県教育庁文化課 1986
『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－平成２年度－』千葉県教育庁生涯学習部文化課 1992
『平成２年度 財団法人 印旛郡市文化財センター 年報７』財団法人 印旛郡市文化財センター 1991

3『四街道市吉岡遺跡群』四街道市吉岡遺跡群調査会 1986

4『吉岡谷津塚遺跡発掘調査報告書』四街道市教育委員会 1988

5『千葉市史 史料編１ 原始古代中世』千葉市史編纂委員会 1976
『遺跡研究論集II －蕨立遺跡を中心とした縄文時代中期初頭集落址の研究－』遺跡研究会 1982

Ⅲ　調査の成果

今回の調査区は、周知の堂ノ後遺跡の南端部分に当たり、南東に延びる舌状台地のほぼ中央部に位置する。標高は29～31mを測る。調査の結果、台地南側の支谷へ続く埋没谷状の微地形が２か所で観察された（図２）。2D24グリッドでは、地中を伏流した雨水がⅦ層中位で湧出し、また5H05グリッドではATパミス純粋層が10cmほどの層厚で堆積していた。

１．遺構（図３；図版５）

１号土坑　調査区の南東部8L20グリッドで検出された。調査区の南東部は、畑の耕作に伴う土地の削平や無数の機械溝，根切り溝等により、部分的にⅤ層上面に至る攪乱を受けている。検出面はⅢ層上面で、検出面での形態は、長軸150cm，短軸70cmの楕円形を呈し、深さは70cmを測る。底面，壁面に施設等の痕跡は認められなかった。遺物の出土はないが、形状や覆土の状況から縄文時代に通有の陥し穴状土坑と思われる。

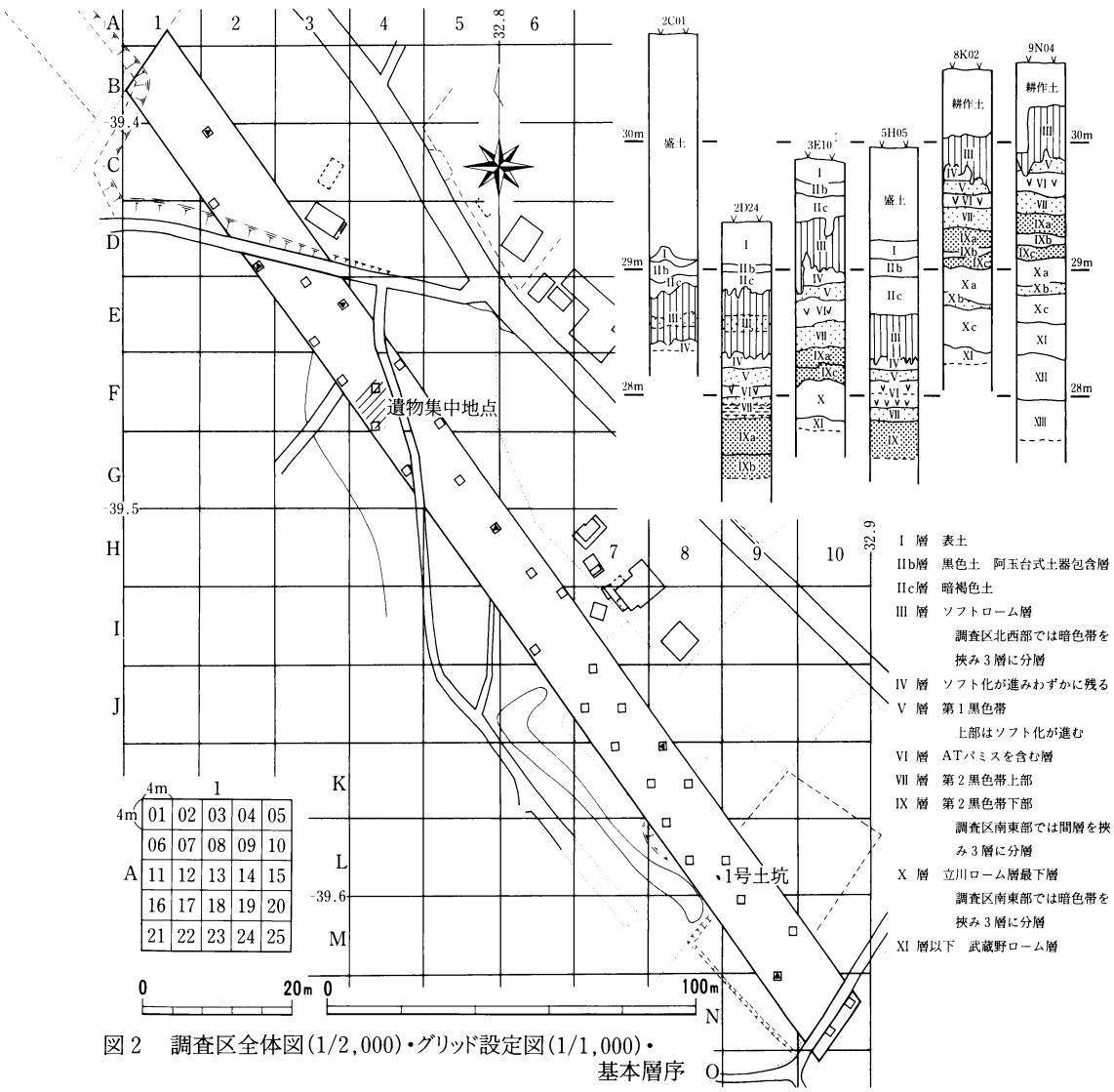


図２　調査区全体図(1/2,000)・グリッド設定図(1/1,000)・基本層序

2．遺物（図４，５；図版３，４，６）

調査区の北西部4F17グリッドを中心に、径約10mの範囲から遺物が出土した。周囲を精査したが、遺構は認められなかった。出土層位はIIb層である。

縄文土器　全105点が小破片の状態で出土した。完全に復元できたものはない。分類の結果、６個体の土器に集約することが判明した。そのうち器形の窺えるもの５個体８点を図示した。

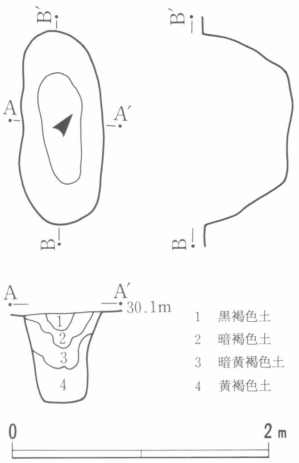


図３　１号土坑

１～５は、竹管状工具による結節沈線や大型爪形文を隆帯に付随させたものを文様の主要素とする。１は対向する二組の把手を持つと思われる波状口縁の深鉢で、口縁を縁取る刻みの付いた隆帯は、口縁部文様帯で枠状区画を構成する。頸部は複列の結節沈線で半円状，直線状のモチーフを描く。胴部は四単位の扁平な枠状区画を施し、下半部に対向する蕨手状の渦巻文が立ち上がっている。２，３は小突起を持つ深鉢の口縁部で、同一個体に属する。突起部分や胴部に円環状の隆帯を持つ。爪形文はすべて同一工具で施文されているが、隆帯上とその他の部位では、器面との施文角度を変えることによって異なった文様

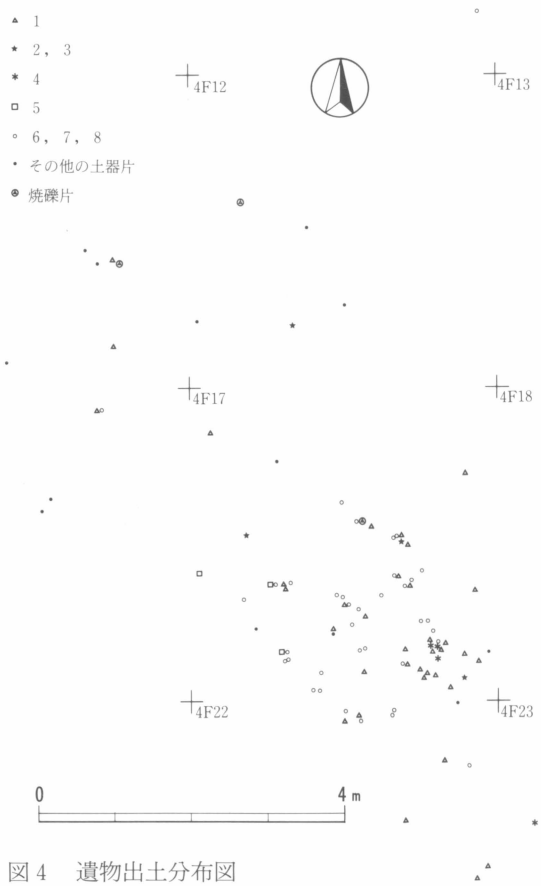


図４　遺物出土分布図

図版３　遺物出土分布状況（北東から）

図版４　遺物出土状況（南東から）

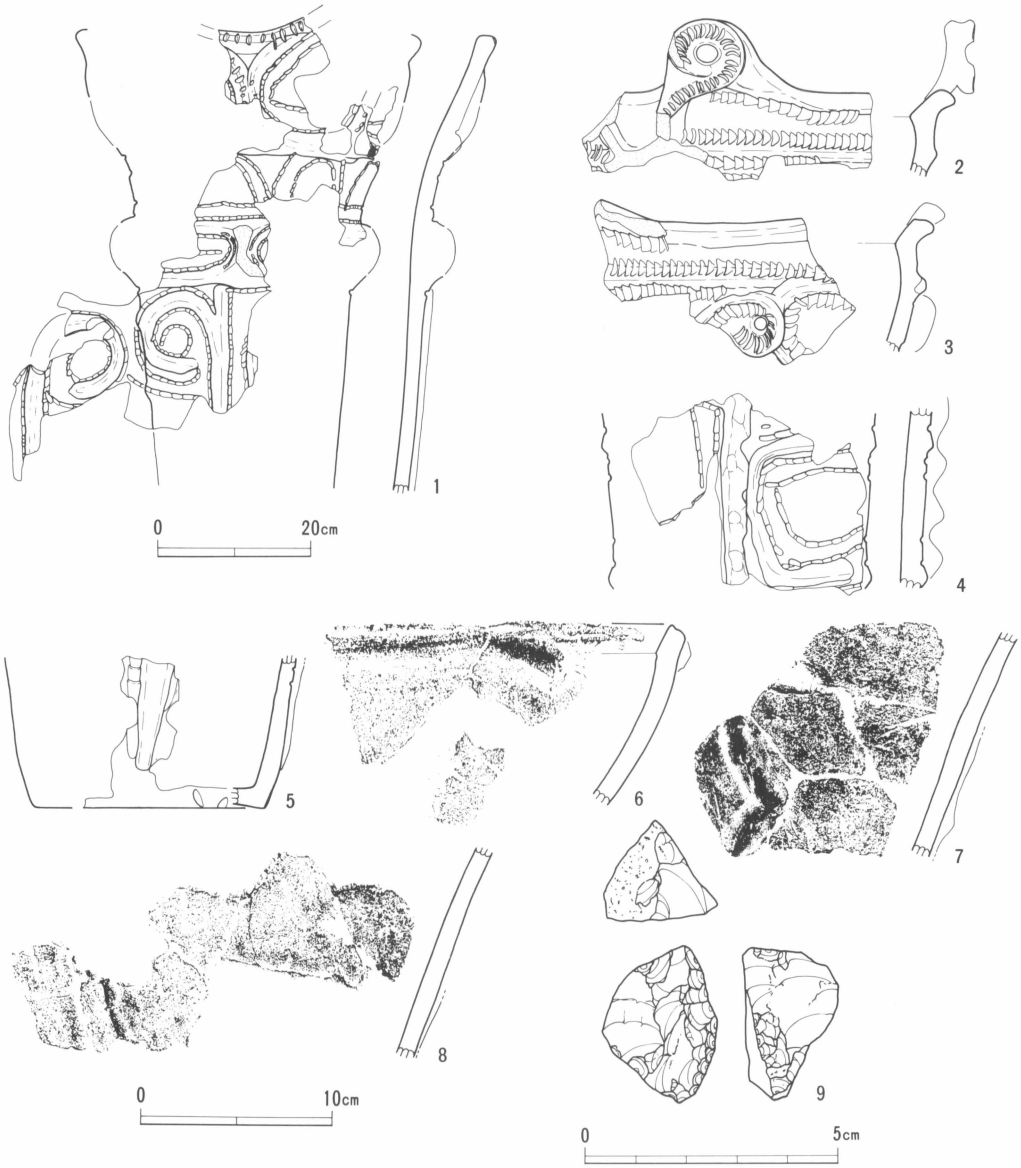


図5　出土遺物

効果を表出している。4は間隔をあけて押圧することにより高低差の付いた隆帯を垂下させ、細い結節沈線を付随した隆帯で枠状区画を胴部に描出している。5は爪形文を付随した隆帯を垂下する胴下半部から底部である。底部はやや上げ底で、底部の稜を切るように刻み状の工具痕が2か所に見られる。6，7，8は同一個体で、地文を持たず、上端をY字状に開く隆帯を蛇行・垂下させる。口唇部はやや角張り、口縁内面に稜を持つ。

石器　焼礫片が3点出土した。図示しなかったが、1点は破砕前の焼成、ほかの2点は破砕後も焼成を受けている。後者の1点については自然面を残していない。9は石英の石核である。8K19グリッドで耕作に伴う機械溝から検出された。検出面はIII層上面である。図示しなかったが、このほかに石英と黒曜石の剝片各1点が同様の状況で検出された。

Ⅳ　まとめ

縄文時代及び平安時代の遺物散布地として周知された堂ノ後遺跡の周辺は、現在大部分が山林や畑であるものの、林間キャンプ場としての利用やグランド等の造成・整備が行われ、徐々にではあるが変容しつつある。今回の調査は、遺跡範囲の南端部分に当たり、道路の路線幅という限られた範囲のものであったが、縄文時代の資料を検出することができた。

遺構では陥し穴状土坑が１基検出された。並木川流域の陥し穴状土坑の調査例は、対岸の軽沢遺跡，中ノ尾余遺跡，金住院遺跡，羽根戸遺跡で計48基の報告がある[1]。そのうち40基を検出した軽沢遺跡では、検出面の問題や深さの基準に曖昧さはあるが、形状の特徴から３分類をしている。形状による占地の違いや、支谷（＝水場）に関連させた方向性及び分布まで捉えられてはいないが、今回の調査例で同様の土坑の広がりを吉岡支谷左岸台地上にも想定することが可能となった。なお、吉岡支谷右岸台地上では木戸先遺跡でも18基が調査されている[2]。

遺物では、縄文時代中期前半の阿玉台式土器と焼礫片が一括出土し、また原位置は保っていないものの石核１点及び剝片２点が検出された。阿玉台式土器については、Ⅰa，Ⅰb，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳと主文様の隆帯に沿った竹管状工具による連続刺突文（角押文，結節沈線文，爪形文等と呼ばれる）の変化を基にした５細分が常用されている。今回出土したものは、図５－２，３のような隆帯に沿った爪形文の大型化から阿玉台Ⅲ式に比定できよう。図５－１，４のような細い結節沈線はより古段階の様相を呈するが、施文された結節沈線を詳細に観察すると、施文方法や使用した竹管状工具の先端加工の形態に古段階のものとの差異が認められる。文様表現の一要素である結節沈線が、施文方法等のテクニック抜きに表面的なデザインとして受容され、阿玉台Ⅲ式段階まで残ったものと考えられる。また、図５-1の胴下半部は、渦巻きを対向する（見方を変えれば背合わせとなる）３組の蕨手状のモチーフを想定している。同様のモチーフは、市川市鳴神山遺跡[3]や松戸市子和清水遺跡92号住居跡出土[4]の胴部に描かれているものがあるが、いずれも単独のモチーフである。今後、類例の増加を待ちたい。

並木川流域の阿玉台式土器の散布地は８遺跡が知られ、そのほかに発掘調査の結果阿玉台式土器が出土した遺跡は、堂ノ後遺跡を含めて７遺跡を数えることになった。一方、該期の遺構の検出例は未だに皆無である。周辺の該期の集落跡としては、都川水系の千葉市蕨立遺跡の調査例[5]があるだけである。

註：1『四街道市吉岡遺跡群』四街道市吉岡遺跡群調査会　1986

2『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－平成２年度－』千葉県教育庁生涯学習部文化課　1992

『平成２年度 財団法人 印旛郡市文化財センター 年報７』財団法人 印旛郡市文化財センター 1991

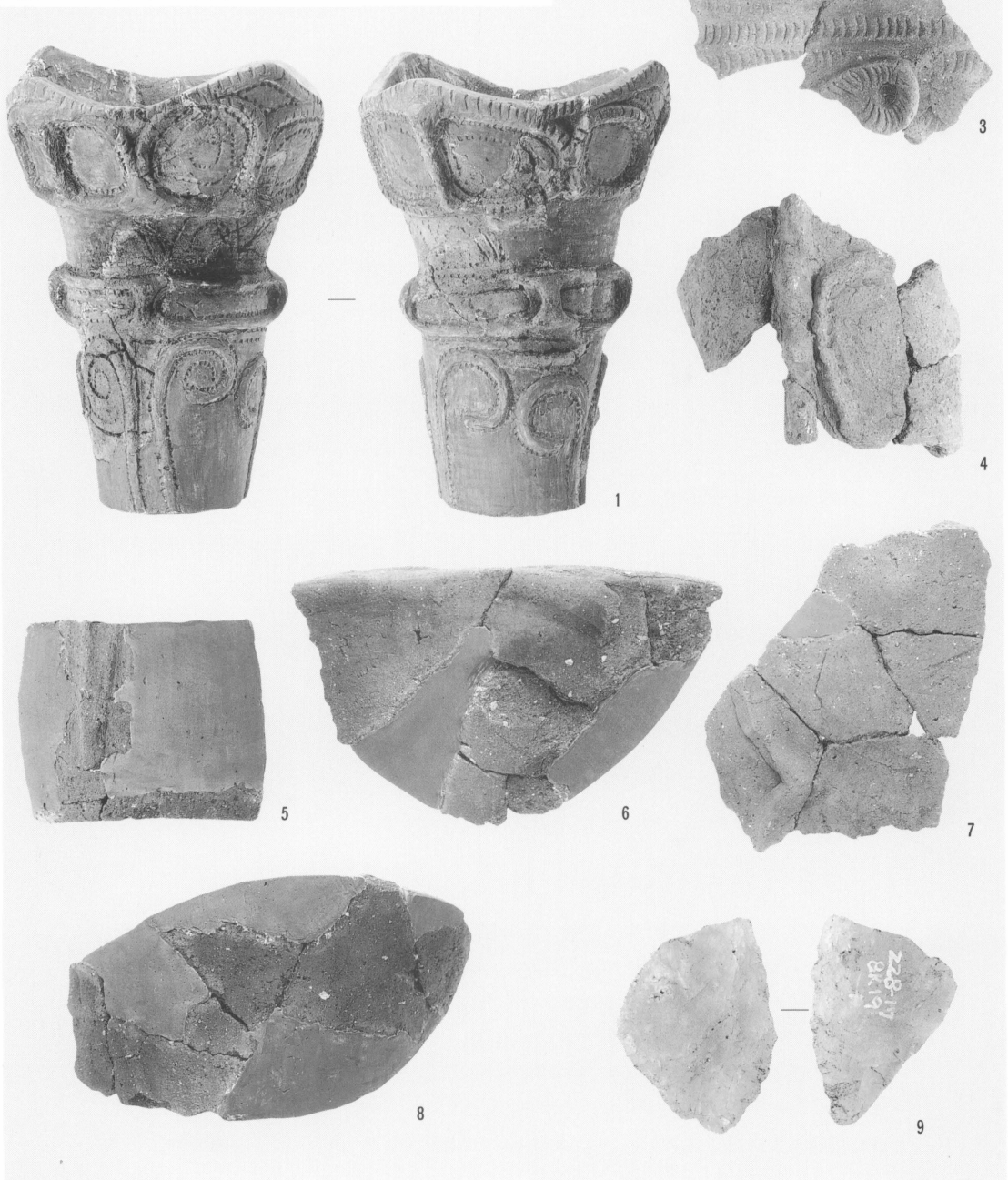
3 高橋良治「千葉県鳴神山貝塚の土器」『考古学手帖10』1959

4『松戸市文化財調査報告 第８集 子和清水貝塚 遺物図版編１』松戸市教育委員会 1978

5『千葉市史　史料編Ⅰ　原始古代中世』千葉市史編纂委員会　1976

『遺跡研究論集Ⅱ －蕨立遺跡を中心とした縄文時代中期初頭集落址の研究－』遺跡研究会 1982

図版５　１号土坑（北西から）



図版６　出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	よつかいどうし どうのうしろいせき
書名	四街道市 堂ノ後遺跡
副書名	主要地方道浜野四街道長沼線住宅宅地関連事業に伴う埋蔵文化財調査
巻次	
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第275集
編著者名	山田 貴久
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284 千葉県四街道市鹿渡809番地2 Tel. 043-422-8811（代表）
発行年月日	1995年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
堂ノ後（どうのうしろ）	四街道市吉岡（よつかいどうし よしおか）	228	017	35° 38′ 36″	140° 11′ 42″	19940901 ～ 19941014	6,000m²	主要地方道浜野四街道長沼線改良工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堂ノ後	散布地	旧石器～縄文		石核1点，剝片2点（III層上面）	
		縄文	遺物集中1か所	阿玉台式土器 焼礫片3点	

千葉県文化財センター調査報告第275集

四街道市堂ノ後遺跡

主要地方道浜野四街道長沼線住宅宅地
関連事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成7年3月27日　印刷
平成7年3月31日　発行

発行　千葉県土木部
千葉市中央区市場町1－1

編集　財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印刷　株式会社 正文社
千葉市中央区都町2－5－5